

第4回 百間川分流部保全方策検討委員会

議 事 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成26年10月30日（月）14：00～16：00

場 所：岡山県青年館 大ホール

【出席委員・オブザーバー】

委 員：前野 詩朗（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授）

稲田 孝司（岡山大学 名誉教授）

樋口 輝久（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授）

万城 あき（公益財団法人 岡山県郷土文化財団 主任研究員）

オブザーバー：代理 宇垣 匡雅（岡山県教育庁 文化財課 参事）

【議事次第】

1. 開 会

2. 議 事

（1）第2回、第3回委員会の検討内容整理及び議事要旨整理

（2）背割堤暗渠、水制状石積みの保存方法（案）

（3）二の荒手の保存・保全方法（案）

（4）百間川分流部改築計画平面図（案）

3. 閉 会

【議事概要】

（第2回、第3回委員会の検討内容整理及び議事要旨整理について）

〇〇委員：分流部水制状石積みの参考として整理いただいた後楽園の船着き場は、もともと水制があった場所に作ったというのが後楽園築造の過程であり、もう一段階古い絵図（築庭直前の「御後園地下げ絵図」）では、船着き場を設置する前に河岸の保護のために水制が設置された状況が描かれている。

〇〇委員：参考資料-1の21ページの図で、「一の荒手」と書かれている下へ2本並行して伸びる土手が百間川の堤防であるならば、一の荒手の延長は相当に長かったことになるが、左側へ延びる土手が分流部の背割堤になるのか。

事務局：現在の状況と絵図の縮尺が異なり、図からは読み取れなかった。現在の巻石部（亀の甲）が同じ場所にあるとすれば、当時と分流部の構造が変わっているということは読み取れる。

〇〇委員：後楽園の水制も含め、江戸から現在に至るまで様々な形で使われており、これらを一連のものと考え、分流部の水制工も江戸期の伝統を受け継いだものであると

考えてよいのではないか。

(背割堤暗渠の保存方法について)

〇〇委員 : 今回のように工夫いただいた現状保存案で問題ない。現地に残すことが重要であり、移設して見せるという方法もあるが最後の手段である。今回案でお願いしたい。

委員長 : 移設して見せて残す、という方法もあるのではないかと思う。河川工学的には、川には余裕を持たせて自由に動くことが望ましい。本来は堤防法線はなるべく現在のままのほうがよいと考えるが、今回は、河積が減るものの旭川側の堤防の直線性が増すので流れやすくなるため、現状保存案でもよいと考える。

〇〇委員 : 一旦全部解体して、調査を行い元に戻すということに対して、文化財としての価値はどう位置づけられるのか。

〇〇委員 : 現地に残すのであれば、全部解体するような調査は必要無いと考える。解体調査は、例えば 100 年後、1000 年後に学術的なレベルが高くなり、どうしても壊さなくてはならないときにやればよい。今回は保存に必要な最低限の調査でよいと考える。背割堤を設置したあとに開削して暗渠を設置したのか、先に水路があってその上に堤防を盛ったのか、開口部付近の堤防を薄く削って確認をしていただきたい。また、天井を下から見た図面と側面の図面があればよく、解体する必要はない。

事務局 : 調査時に岡山県文化財課に相談させていただく。

〇〇委員 : 暗渠により先に水を入れて洪水で土地を荒らされないようにするという、このような構造が岡山特有なのか、他に事例があるのか報告書に盛り込んでいただきたい。

事務局 : 調査時に同様の事例があるかどうかも含めて岡山県古代吉備文化財センターに調べていただくようお願いする。

委員長 : 一の荒手が 2 つあったという絵図があったかと思うが、下流側の一の荒手が切れたときには、百間川から旭川への排水の役割も果たしたのではないか。その機能を小規模にして残したのがこの暗渠ではないかとも考えられる。

〇〇委員 : 調査の際に、少し範囲を広げてトレンチを入れて、一の荒手に 2 つの越流部があったのかどうか確認してみるとよい。

事務局 : 今年度、下流側の一の荒手付近である 11k400 付近を含め、背割堤の発掘調査を 3 箇所実施する計画である。

(水制状石積みの保存方法について)

〇〇委員 : この付近に水制があり、歴史的に何かの役割を果たしてきたと思われる。今もきれいな形で残っているので、今回案で現状保存してほしい。

〇〇委員 : 保存できるという点ではよいが、今回の工事で存在がわからなくなるので、先人の知恵やここにこういう構造物があったということがわかるようにしておく必要がある。

委員長 : ここにあったということが、例えば、散策する人などにわかるようにしておくのが良い。

事務局 : 河道内に看板等は設置できないが、堤防の中に埋め込む形で案内表示をするなど、アピールしていきたい。

- 〇〇委員 : 小段を広くしたところに、背の低い説明版などをその場所に設置できればよい。
- 事務局 : AR技術（現地表示板にスマホ等をかざし発掘写真等が閲覧可能）の活用も含めて検討していく。
- 〇〇委員 : 散歩等で地元の人が多く通る場所であれば効果は絶大だと思うので、ぜひ、検討していただきたい。
- 〇〇委員 : 熊沢蕃山が考えて永忠に伝えたというのは、いわゆる水路を持たない、ただ水を吐かすだけの「川水除け」の方法だったはずである。その後、いわゆる百間川に仕上げていくまでの経緯はわからないが、この水制は川をどのように制御してきたかという指標になると思う。
- 水制の向きが絵図と異なっており、今の時点でできる限り立体的に、基礎部も含めて調査していただきたい。昔は今在家など左岸側の地域全体が水浸しになっていたもので、低く造った土手はどの範囲だったのかも考慮して調査をしていただきたい。
- 事務局 : 今後ご意見をいただきながら調査を進めていきたい。

（二の荒手の保存・保全方法について）

- 〇〇委員 : 水の流れるところは安全上の必要があるので低水路部は保全（補強）案でよいと考える。
- 委員長 : 高水敷部の保存範囲はどのように取り扱うのか。
- 事務局 : 上下流の高水敷と同じ高さで埋めるだけで、現状のまま保存する。
- 委員長 : 現状のままだと草が生えて見えなくなる。草が生えないような工夫ができないか。散策する人に、百間ある二の荒手の石積みや左岸側の導流堤が見えるようにしてほしい。
- 〇〇委員 : 左岸側の導流堤は、現在のように石積みが見えた形で残すのか。
- 委員長 : 導流堤は平成10年洪水時も破損しており、今後洪水時に壊れる可能性があるため、保全（補強）したほうがよいのではないかと。また、切欠き部は散策する人が渡れるように飛び石などを配置し、左右岸を一体化して散策道の整備を検討してほしい。
- 〇〇委員 : 導流堤は平石積みで古い構造物である。解体すると今の趣がなくなる可能性があるため、現状のままで何か補強できる方法を検討してほしい。
- 事務局 : 平成10年洪水時に復旧を行っているが、現状の外観を損なわないよう内部をコンクリートで固めるなどの補強方法や除草の方法についても検討していく。
- 委員長 : 草木が繁茂することで構造物が傷む可能性があるため、除草などの維持管理をしていただきたい。
- 事務局 : 左岸導流堤は現状保存ではなく、極力改変を伴わない最低限の補強（保全）を行う方向とさせていただく。

(百間川分流部改築計画平面図(案)について)

【保存・保全方法のまとめ】

- ・一の荒手上流・下流巻石部(亀の甲): 保全(補強)(流水部及び根入れ部分)
- ・二の荒手: 低水路部: 保全(補強)、高水敷部: 現状保存、左岸導流堤: 保全(補強)
- ・背割堤暗渠・水制: 現状保存(土中)

- 委員長 : 連続性のある景観の観点から、二の荒手下流の護床ブロックは、可能であれば自然石あるいは自然石を連結したものなどにできないか。一の荒手周辺も含めて検討してほしい。
- 事務局 : 安全性、景観、経済性を考慮し、今後検討する。
- 委員長 : 「江戸時代の石積み」に対し、「平成の石積み」も立派だと 300 年後、500 年後の方に思っただけのような構造物を造ってもらいたい。
現地に看板などを掲示することなども検討してほしい。
また、散策やジョギングで利用する人や観光客が、ここに来て良かったと思えるような整備を行ってほしい。
- 事務局 : 多自然川づくりを基本とし、周辺の自然環境と調和し、なおかつ歴史的な遺構だとわかるような形、さらに利用にも配慮して整備を進めていく。
- 〇〇委員 : 今回改修した部分と遺構との違いがわかるようにしてほしい。高松城址では、秀吉が築かせた堤防の展示城壁等の復元工事の際に飾りで置いた石がもともとあったかのように誤解された。百間川分流部では、元々あった遺構と今回造った景観の違いがわかるようにしてほしい。
- 事務局 : ご意見を踏まえ、明確にわかるように整備していきたい。
- 〇〇委員 : 今回一の荒手及び背割堤が埋蔵文化財となり、試掘結果も踏まえて、保存・保全方法を検討いただき感謝する。
- 〇〇委員 : 百間川というのは、分流部や河口部の水門も含めて機能を果たしている。昔、河口部には石で作られた樋門があり、それこそが百間川を形成する元だったわけだが、そういう構造物があること、岡山藩には非常に高度な技術があったとか、それをここで見るができるというのは岡山の 1 つの観光スポットにもなる。一の荒手、二の荒手含めて、百間川がないと沖新田も後樂園もできていないという岡山発展の歴史を含めて、子どもにもわかりやすい冊子ができないか。
- 事務局 : 歴史を記した冊子作成のほか、土木遺産への登録申請なども進めていくのでご指導をお願いしたい。
- 委員長 : 今回示されたイメージ図を実現させることが重要である。分流部の改築が、地域の安全に貢献し、今後 300 年度、500 年後に良いものを造ったと思われるようにしてほしい。また、百間川分流部には江戸時代から継承された様々な土木構造物があることについて後世に伝えとともに、関係機関と協力し、全国に向けて PR に取り組んでほしい。

以上